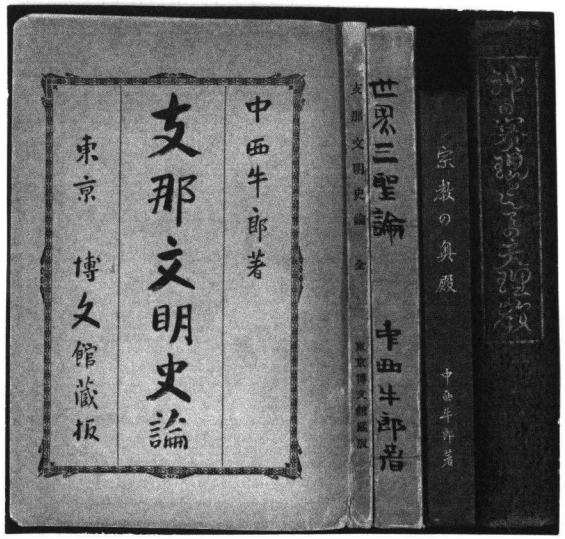
中西牛郎（なかにしぎうらう）宗教評論家。安政六年肥後國生れ、昭和五年十月十八日歿（一八五九―一九三〇）。號大死一番庵、蘇山。熊本藩漢學者の子。家學を修めたのち、上京して英學塾に學ぶも一年程で歸鄉。次（つい）で德富蘇峰、下村孝太郎の盡力で同志社に入り、外國人教師の依囑で飜譯に從事。傍ら赤松連城、南條文雄等に佛教を聽く。明治二十年『宗教革命論』を著はして大谷光尊の知遇を得、アメリカに留學。歸朝後本願寺文學寮の教頭となるも、藤島了穩寮長との確執で免職。その後『大阪毎朝新聞』主筆、哲學館及びユニテリアンの唯一館講師等歷任。二十三年天理教本部に入り教義統整に當り、昭和二年入信。

著書に『組織佛教論』（明治二十三年五月二十二日敬虔社）、『新佛教論』（明治二十五年一月二日京都・興教書院）、『停會何故乎』（明治二十六年一月二十七日京都・博議社「經世博議」號外）、『支那文明史論』（明治二十九年十一月十七日博文館）、『嚴護法城』（明治三十年三月三十日京都・山岡悅刊）、『泰東哲學家李公小傳』（明治四十一年十二月二十日臺北・臺灣日日新聞社）、『世界三聖論』（明治四十三年七月二十日廣文堂書店）、『宗教の奥殿』（大正十二年四月十五日大阪・大日本國光宣揚會）、『神の實現としての天理教』（昭和四年十二月二十五日平丸社）等。